

令和7年度 看護業務改善のためのICT導入アドバイザー派遣業務

ICT導入による看護業務改善計画

医療法人慈正会
丸山記念総合病院

施設概要

病院の理念
「地域住民・職員の人生に寄り添う」



所在地	埼玉県さいたま市岩槻区本町2-10-5
病床数	稼働病床数215床(令和8年2月1日現在)
主に算定している入院基本料	急性期一般入院料1、地域包括ケア病棟入院料2、回復期リハビリテーション病棟入院料1
職員数	477名(令和8年2月1日現在) うち看護職員232名(看護師192名、看護補助者40名)
患者数	令和6年度 入院患者数4,418名、退院患者数4,417名(うち看取り患者数189名)
看護部の理念 (患者へのケア方針)	「思いやりと豊かな知性を持ち、温かい看護を提供いたします」 患者さんや家族の皆さんが安心して医療、看護が受けられるようにサポートいたします
看護提供方式	チームナーシング・一部セル看護方式
看護記録方式	SOAP・経時記録等
現在使用している看護機材	ナースコール・センサー等
看護師の離職率	令和6年度 新人看護師7.7%、その他看護師15.5%
問い合わせ先	病院HP : https://maruyama-hp.or.jp/ 電話番号: 048-757-3511(代表) メールアドレス等: info@maruyama-hp.or.jp

本事業に参画した背景・目的

本事業に参画した背景

外来

- 午前のみで最大800名超の来院
- 4エリア・38診療室が分散し、全体進捗の把握が困難
- 診療科ごとの固定配置により看護師稼働が非効率
- 看護師39名配置(常勤換算29.9名)
→非常勤48%で柔軟な運用が困難
- 業務平準化に取り組むも抜本的改善に至らず
⇒ICT活用による外来業務の可視化・中央管理体制の構築が必要

病棟

- 急性期病棟の超過勤務時間: 平均18.6時間/月
(看護部全体平均10.1時間/月)
- 新入院患者の92%が急性期病棟
- 記録業務の負担が大きい
- 記録の標準化・効率化が進まず
⇒記録業務の改善と業務効率化が急務

本事業の目的

ICT導入による業務改革

- 看護業務の可視化・標準化・効率化
 - ・人員の柔軟配置と適正運用
 - ・業務の平準化
- 看護の質向上
 - ・記録の充実と負担軽減
 - ・患者と向き合う時間の確保
 - ・医療安全の強化
- 働きやすい環境づくり
 - ・外来看護師の業務拡大
 - ・病棟超過勤務時間の削減
 - ・配薬・採血時の誤認防止
 - ・患者・職員の満足度向上

取り組み予定期間と主な内容

期間		主な取り組み内容
令和7年度	7～9月	<ul style="list-style-type: none"> 外部アドバイザーによる看護業務の抽出
	10～12月	<ul style="list-style-type: none"> 導入したいICT機器の検討・ベンダーヒアリング ICTを導入せずとも改善可能な業務の改善方針の検討 ICT導入に向けた院内での合意形成
	1～2月	<ul style="list-style-type: none"> ICT導入計画書作成 導入を検討するICT機器(インカム)デモンストレーション 成果報告書作成
	3月	<ul style="list-style-type: none"> 成果報告会への参加 デモンストレーションの評価、導入可否検討
令和8年度	4～6月	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器ベンダーとの契約 院内での機器導入に関する周知
	7～9月	<ul style="list-style-type: none"> ベンダーからの使用方法説明会の開催、機器導入
	10～12月	<ul style="list-style-type: none"> 機器使用方法の不明点を解消する質問会の開催#1 効果測定
	1～3月	<ul style="list-style-type: none"> 機器使用方法の不明点を解消する質問会の開催#2 令和9年度の詳細スケジュールの検討
令和9年度	4～3月	<ul style="list-style-type: none"> 効果測定、測定した結果の分析・取りまとめ 次年度以降で実施すべき課題、その他のICT機器導入余地検討
令和10年度以降		<ul style="list-style-type: none"> 多職種で発足したICT導入推進チームによる定例会・活動により継続した業務改善への取り組み

課題解決へ向けた取り組みの目的・目標

目的

- ICTを活用し、外来・病棟における看護業務の見える化・標準化・効率化を推進し、看護師が本来業務に専念できる体制を構築
- 患者・職員双方の満足度向上

目標

1. 外来業務の標準化と効率化
 - 患者指導・処置・ワクチン予定の電子的管理
 - 業務の可視化
 - 中央配置看護師のICT活用による柔軟運用
 - 予約調整・薬局対応のタスクシフト
2. 病棟記録業務の効率化
 - バイタル・看護記録の入力方法改善
 - 記録内容の統一・重複削減
 - 記録時間の短縮

取り組み内容(業務改善を行う業務)

#	業務改善する内容	用いるICT機器等	従来の所要時間 (時間/年)	想定削減余地	
				想定削減 可能時間(時間/年)	業務全体に占める 割合(%)
1	外来業務量調整(中央配置運用)	インカム	720時間	720時間	13.9%
2	外来・病棟患者説明業務	ポケサポ(説明動画)	343時間	277時間	5.3%
3	看護サマリ作成時間	生成AIサービス	284時間	269時間	5.2%

ICTのご紹介(ポケさぼ)

PMFをベースとした患者説明システム。多様な患者説明に対応し、患者説明に係る時間を削減し、個別ケアに充てる時間を創出する

製品の概要

- ポケさぼとは、動画やメッセージで患者説明を半自動で実行するシステム
- 前提条件としてchromeブラウザが使用できるPC端末1台、LINEアカウント1つ、導入時に限りスマートフォン1台必要
- 患者説明機能は以下3つ。初期費用で5パターンまで作成可能
 - 患者への説明を、わかりやすいオリジナル動画やLINEメッセージでご案内
 - 入院/検査日にむけてメッセージを自動配信し、患者を当日までフォロー。書類の書き方や持ち物、前処置の薬の飲み方等をリマインド
 - 患者さんからの一部問い合わせを、テキストで受け付けることも可能(機能オフも可能)
- アナムネ・問診機能は以下の5つ
 - アナムネと複数の問診をまとめて、1つのフォームに
 - 患者さんはスマホからフォームに回答を入力
 - 回答の出力は、手書きの問診票と同じデザインに
 - 患者さんの回答をふまえて、加算などの判定支援も可能
 - 回答は電子カルテにPDFデータとして連携し、コピー入力とQRコード入力が可能



課題と期待される効果

課題

- 入院説明にかかる時間にばらつきがあり、説明する場所の限りもあるため、患者の待ち時間が発生する
- 入退院支援業務は診療報酬改定により業務範囲が拡大したが、人手不足もあり職員の業務負担が増えている
- ペーパーレス化を推進しており、患者への配布物を減らしたい

期待される効果

- 導入効果としては「業務負荷軽減」「時間の有効活用」「ペーパーレス」
 - ✓ 対面業務が1時間から30分に半減した施設もあり、空いた時間は指導や新規患者対応に活用。待ち時間の短縮にも寄与
 - ✓ 1人あたりの配布資料をPDF化することで紙資料を約30%軽減(配布している資料内容なデジタル化対象とする資料枚数で削減枚数は異なる)

ICTのご紹介(生成AI)

生成AIで医療文書作成を効率化。医師・看護師の業務負担を軽減し、診療の質向上へ

製品の概要

- 電子カルテと連携した生成AIサービスの主な機能
 - 退院サマリ・看護サマリ下書き作成
 - 患者情報を自動抽出しドラフトを生成
 - 看護師が修正・最終化
 - 診療情報提供書の下書き作成
 - 他医療機関向け紹介状のドラフトを自動生成
 - 音声テキストAI
 - 音声記録の自動文字起こし・要約
 - 生成AI汎用ツール
 - 年次・外来診療記録を自動要約し、サマリ作成を支援
 - 診断書や各種文書作成の下書き生成
 - 退院サマリ用プロンプトの見直しと実データでの検証が可能
 - リハビリサマリ作成もツールで効率化
 - プロンプトマスタ
 - 標準化されたプロンプト管理・共有でAI出力の精度・一貫性を確保

課題と期待される効果

課題

- 医師の働き方改革により、医師をはじめとする医療従事者の業務効率化・負担軽減が求められている
- 文章の作成や要約は業務負担が高い
- 看護サマリの記載内容に個人差がある

期待される効果

- 事務作業の業務効率化
 - ✓ 文章作成や要約、校正といった業務負担の高い作業を生成AIにより効率的に行うことができる
- 業務の質向上・均一化
 - ✓ スタッフのベストプラクティスを医療機関内で共有し、業務内容を改善することができる

ICTのご紹介 (LINE WORKS ラジャー)

院内連携の即時性と記録性を高める音声連携ツール。スマホで完結し、業務効率とチーム連携の向上に寄与

製品の概要

- ・LINE WORKSラジャーは、スマートフォンを使ったリアルタイム音声連携(業務用トランシーバー)
- ・前提条件としてインターネット環境が必要
- ・主な機能と特徴
 - ▶スマート発話・終話:声だけで通話開始・終了
 - ▶ハンズフリー対応:声での操作が可能のため、作業中にイヤホンやスマホ操作は不要
 - ▶距離制限なし:インターネット接続で、建物内、フロア跨ぎ、異なる拠点でも会話可能
 - ▶音声からの文字起こし機能:発言内容がトークルームに自動記録(聞き逃し防止)
 - ▶チャンネル管理・業務ごとにチャンネルの作成・切り替えが可能
 - ▶LINE WORKS連携:音声とチャットを混在利用可能
 - ▶スマホでメンバー管理:スマホ一つでメンバーのライセンス割り当てや各チャンネルへのメンバー追加・削減が可能

課題と期待される効果

課題

- ・エリア・診察室が分散し、全体進捗が把握しづらい
- ・応援要請・調整に時間を要する
- ・診療科ごとの固定配置により業務量に偏り
- ・中央管理的な柔軟運用が難しい

期待される効果

- ・リアルタイムな情報共有
- ・口頭確認・電話連絡の減少による業務効率の向上
- ・中央的視点での人員調整が可能となり人員活用の最適化
- ・伝達ミスの減少や状況共有によるチーム医療の強化により医療安全・患者満足度向上

ICT導入により見込まれる効果

#	製品名	見込まれる効果		測定方法	目標値	測定時期
		定性or定量	測定したい効果			
1	インカム	定量効果	外来待ち時間削減	受付～処置開始時間の平均比較	5分以上削減	導入前年度/1年後
			連絡・調整時間削減	1件あたりの連絡時間測定	20%以上減少	導入1か月前/3か月後
		定性	職員間コミュニケーション円滑化	5段階評価アンケート	0.5ポイント改善	導入前/3か月後
			看護師ストレス軽減	ストレス度合い評価	0.5ポイント低下	導入前/3か月後
2	ポケサポ	定量	患者説明時間削減	1件あたり説明時間比較	15%以上削減	導入前/3か月後
		定性	説明の標準化	看護師アンケート	70%以上が実感	導入前/3か月後
3	生成AI	定量	病棟超過勤務時間の削減	月平均超過勤務時間比較	10%以上減少	導入年度/1年後
		定性	記録業務負担軽減	看護師アンケート	0.5ポイント改善	導入前/3ヶ月後

本事業全体を通して得られた効果・影響

1. 業務の可視化による意識変化

- 業務時間の定量化により「負担の実態」が明確化
- 感覚的議論から、数値に基づく改善検討への転換

2. 業務改善・標準化への意識向上

- 業務改善のため「ICTは手段」という理解の浸透

3. ICT活用への基盤整備

- インカム試験運用開始(外来)
- 説明動画導入の方向性決定
- 生成AI導入決定

当院での取り組みポイント



①ICT選定を目的ありきではなく課題起点で実施

- ・モデル部署を設定し業務時間測定、年間時間に換算
- ・「感覚」ではなく削減可能時間(%)で優先順位決定

②一斉導入ではなく、検証→修正→展開のプロセスを重視

- ・デモンストレーションによる現場検証を実施
- ・課題抽出と評価・修正を行った上で段階的導入を検討
- ・スモールスタートにより現場の負担と混乱を最小化

③ICT導入は目的ではなく「看護の質向上と働きやすさ実現のための手段」

- ・業務改善・標準化が目的であることを明確化
- ・タスクシフト・中央配置との組み合わせで検討
- ・導入前後で効果測定を実施し、改善サイクルを継続

今後の展望

改善活動継続と定着

- 本計画終了後も効率化・標準化を継続的に検討
- 導入後も効果測定を行い、PDCAサイクルを継続
- ICTを活用しながら業務の見直しを習慣化

ICT導入推進体制の強化

- ICT導入推進チーム継続運用
- 定期的な定例会の開催
- 多部署・多職種が参画する体制への拡大

病院全体への展開と質向上

- モデル部署での成果を病院全体へ展開
- ペーパーレス化・業務効率化の推進
- 患者と向き合う時間を創出し、看護の質向上へつなげる

ご清聴ありがとうございました